

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320095

研究課題名(和文) 学習者の多様な背景に着目した論文スキーマ形成型日本語文章作成支援に関する実証研究

研究課題名(英文) Development and Evaluation of Japanese Writing Resources and Activities that Assist with the Formation of Schema for Academic Writing

研究代表者

村岡 貴子 (MURAOKA, TAKAKO)

大阪大学・国際教育交流センター・教授

研究者番号：30243744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,700,000円、(間接経費) 2,310,000円

研究成果の概要(和文)： 学習者の文章における構成や論理展開の問題について分類し、その原因を分析してきた。学習者への聞き取り調査からも、彼らの学習への意識もデータに含め、論文スキーマの形成過程を質的に分析した。特に、他者の文章を評価するライティングタスクを通じた授業実践での学習者の発話によるコメント、および学習者へのインタビュー調査によって、成功者の文章作成能力獲得過程の事例をより詳細に記述し、リソースと教師用マニュアルを開発した。特に複数の文章を比較・分析・評価するタスクを豊富に盛り込み、実験授業でも試用し、評価を行った。

研究成果の概要(英文)： This research analyzed problems concerning logical development in essays written by Japanese language learners, and comments and interviews with successful learners regarding in-class text-analyzing tasks. Based on those data, we developed both academic writing resources for learners and a manual for teaching academic writing. We evaluated these resources by using them in experimental classes.

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 言語学・日本語教育

キーワード： 論文スキーマ アカデミック・ライティング 意識化 テキスト分析タスク 学習方法 メタ認知

1. 研究開始当初の背景

大学や大学院レベルの留学生に対する日本語教育においては、ライティング教育への関心が高まり、レポートや論文の表現の調査分析、ピアレスポンスを用いた実践的な教育開発とその研究、および留学生が作成した文章の構造や論理展開からの評価に関する研究が徐々に活発になりつつある。これまでの研究代表者と分担者・連携研究者の研究により、次の点が明らかになった。

1) 学習者の文章における構造や論理展開上の問題は表現や文法の誤用の問題より深刻である。

2) 学習者が作成した文章を相互に比較・分析・評価する「テキスト分析タスク」は、批判的に文章を読む視点、および他者から学ぶストラテジーの獲得の観点から、学習者の論文スキーマ(研究や論文とは何かの概念に関する知識の総体)の形成に有用である。

3) 文法・語彙・漢字等の知識の多寡にかかわらず、文章をマクロにもミクロにも評価分析できる学習者がいる一方で、文章の細部にとらわれて文体や構成の評価ができない学習者が存在する。

4) 上記 3)の前者である学習成功者のコメントを文章作成過程のプロトコルとして活用したタスク、および文章作成への種々の意識化が必要である。

以上の点をふまえて、具体的な意識化、文章の比較・分析・評価のタスクを多数盛り込んだリソースとその解説書を作成して評価する必要性が確認された。

2. 研究の目的

本研究の目的は日本の大学院で学ぶ留学生の論文作成支援システムの提案を主な目的とし、大学院レベルの日本語学習者を対象にライティングリソースと解説書を開発して試用し、それを評価することである。

3. 研究の方法

本研究では、文章作成支援リソースを開発するため、まず、その内容と構成について検討を行った。検討にあたっては、対象となる学習者の背景やライティング上の問題に関する調査・分析の結果と考察をもとにした。上記のような学習者の文章上に見られる問題は、文章構造や論理展開およびそれらに関する表現の問題を取り上げた。つまり、文法や漢字、語彙に関する、言わば文章を構成する部分の問題は取り上げず、文章の目的と合致した内容と構成、論理展開の不整合がないかの問題を扱った。同時に、学習成功者へのインタビューの結果分析から、学習成功者が持つストラテジーや文章観、これまでの学習背景について種々調査を行った。

4. 研究成果

本研究では、(1) 日本の大学院で学ぶ留

生の日本語アカデミック・ライティングのためのリソース開発、(2) 新たな文章作成支援システムの提案を行った。

(1)のリソースは、この領域での教材には珍しい、学習方法やストラテジーを振り返る内省タスクをはじめ、教室内外の活動、特に自律的学習に資するテキスト分析タスク等も十分に盛り込んだテキストを開発し、あわせて、解説書の開発も行った。教材の目次等の情報は以下の通りである。

- a. 名称: 『論文作成のための文章力向上プログラム アカデミック・ライティングの核心をつかむ』
- b. 頁数: 214p
- c. 刊行年月日: 2013年3月30日
- d. 出版社: 大阪大学出版会
- e. 構成と内容: 本教材は次の全10章から構成され、豊富なタスクを設けている。

- 1 「書く主体」である自分とは
- 2 学習・研究のための「書く」活動について知る
- 3 学習を自己管理し、学習方法を探索する
- 4 文章を読んで問題点を探す
- 5 文章の目的から構成を考える
- 6 論理の一貫性を考える
- 7 的確な表現を追求する
- 8 研究内容を報告する
- 9 活動報告を書く
- 10 未知の人やコミュニティに「自分」を説明する

・第1章～第3章: 学習者自身のライティング活動全般に関するメタ認知を促す「内省」タスク

・第4章～第6章: 文章全体の構成や論理展開の問題を認識させる多様な「分析」タスク
第7章: 前章までで培った巨視的(メタ的)な視点を活用し、文章の目的や相手、媒体によつて的確な表現を選択する重要性を意識させる「分析・リバイズ」タスク

第8章～第10章: 研究活動に必要な、Eメールでの調査依頼文、論文要旨、口頭発表申請要旨、研究機関への応募用の抱負書など多様な文章の「分析・リバイズ」「執筆」タスク

本教材で別冊の形式によって「解答例と解説ノート」設けている。本書では、正誤判断や多肢選択形式の問題以外に、記述式で、模範解答が存在しないタスクもあるため、詳細な「解説」が、学習者をはじめ、学習者の研究室の教員や先輩といった支援者への対応としても必要であるとの考え方に基づいている。

このリソースと解説書の開発にあたっては、学習者の文章上の問題分析の結果と、学

習成功者へのインタビュー調査から、学習成功者が持つ学習ストラテジーや学習方法、それらの意識化が明らかとなり、それをもとに「論文スキーマ」の形成を促す方法論を編み出した。学習成功者のコメントに見られる意識化は、文章作成方法を学ぶ以前に、各学習者が行うべき内省タスクに反映させた。

次に、(2)の「新たな文章作成支援システムの提案」における方法は、あらかじめ教育・研究にのみ活用する旨、学習者から書面で許諾を得て編集した学習者文章コーパスを活用し、タスク形式で協働的に文章の比較・分析・評価を行いつつ、批判的読みの深化を促進し、その上で、作成した文章へのフィードバックを充実させる方法である。これは、従来の、表現や文章のモデル提示型教材をもとにした一方的な指導と教師添削のみに頼る方法とは異なる。

なお、本研究が主として大学院レベルの学習者を対象としていることから、母国での既習者に対する来日後日本語習得が円滑に行われることを目的として、海外における関連教育の実態調査や教師のビリーフ、海外の日本語ライティング教育事情の調査もアジア地域の一部を中心に行った。その結果、アカデミック・ライティングに移行する前の日本語による作文教育のカリキュラムも担当教員のビリーフもかなり異なり、今後、実験授業や共同研究を通じて連携する必要性が認められた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

・村岡貴子・因京子(2014:印刷中)「上級アカデミック・ライティング授業の実践報告—授業の比較・分析・評価タスクによる教材を用いて—」村岡貴子、『大阪大学国際教育交流センター論集 多文化社会と留学生交流』第18号

・村岡貴子(2011)「『論文スキーマ』の観点から見た日本語学習者の文章に見られる構成と論理展開に関する問題分析 - 専門日本語ライティング教育の観点から -」『銘傳日本語教育』第14期, pp. 1-18

・西口光一、三牧陽子、村岡貴子、竹内茜、大谷晋也、難波康治(2011)「論文スキーマ形成のための専門日本語によるライティング教育の開発」(「OUSカリキュラム開発の現在」第7章)『国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第15号pp.11-21 (うち村岡執筆分pp.18-19)

・村岡貴子(2010a)「専門日本語ライティング能力の養成を旨とする学習課題の捉え方」『多文化社会と留学生交流』第14号 大阪大

学国際教育交流センター, pp.49-56

・村岡貴子(2010b)「日本語学習者のアカデミック・ライティング能力の獲得過程—学習者文章の分析とインタビューに基づくパイロット調査から—」『言語文化共同研究プロジェクト 2009 アカデミック・ライティング研究—日本語非母語話者のライティングに関する分析—』大阪大学大学院言語文化研究科, pp.15-23

[学会発表](計 6件)

・村岡貴子・因京子(2014)「日本語アカデミック・ライティングの核心をつかむ」ワークショップ、銘傳大学 2014 国際學術研討會「應用日語教育的理論與實踐」(Theory and Pactice in Applied Japanese Education)、214年3月14日

・村岡貴子・因京子(2014)「文章の比較・分析・評価タスクによる日本語ライティング教材を用いた実験授業とその評価」第16回専門日本語教育学会研究討論会『第16回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.14-15

・村岡貴子・因京子(2013)「研究コミュニティ新規参加者のための日本語文章力向上を目指す教材の開発と評価」第15回専門日本語教育学会研究討論会『第15回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.20-21

・村岡貴子・因京子・仁科喜久子(2012)「論文スキーマ形成から見た専門日本語ライティング能力獲得過程 - 学習者の文章と推敲作業の分析およびインタビュー調査から -」『世界日本語教育大会名古屋 2012 発表予稿集第二分冊:ことばが拓く新たな地平』日本語教育学会, p.209, 査読有

・村岡貴子・因京子・仁科喜久子(2011)「専門日本語ライティング能力養成を目的としたスキーマ形成を促す学習支援リソースの開発」世界日本語教育研究大会『異文化コミュニケーションのための日本語教育2』世界日本語教育大会発表論文集, pp.314-315, 天津(中華人民共和国)

・村岡貴子・因京子・仁科喜久子(2010)「専門日本語ライティング能力の獲得を目指す日本語テキスト分析タスク活動を通じたスキーマ形成」世界日本語教育大会、論文番号1325, pp.0~9, 国立政治大学、台北(台湾)

[図書](計 2件)

・仁科喜久子監修 鎌田美千子他編集 村岡貴子(2011)「研究留学生のための専門日本語ライティング教育の可能性」『日本語学習支援の構築 - 言語教育・コーパス・システム開発 -』(凡人社)所収(うち村岡執筆分77-90)

・村岡貴子・因京子・仁科喜久子(2013)「論文作成のための文章力向上プログラム—アカデミック・ライティングの核心をつかむ—」

(大阪大学出版会)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1)研究代表者

村岡貴子(大阪大学国際教育交流センター教授)研究者番号:30243744

(2)研究分担者

因京子(日本赤十字九州国際看護大学看護学部教授)研究者番号:60217239

中島美樹子(東北大学工学研究院特任教授)研究者番号:80005488

(3)連携研究者

仁科喜久子(東京工業大学留学生センター名誉教授)研究者番号:40198479